

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年 5月 10日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21520384

研究課題名（和文） アジアにおける中国現代文学受容の基礎的研究

研究課題名（英文）

Basic Studies on the Acceptance of Modern Chinese Literature in Asia

研究代表者

山口 守 (YAMAGUCHI MAMORU)

日本大学・文理学部・教授

研究者番号：70210375

研究成果の概要（和文）：

本研究は20世紀の中国現代文学がアジア各地域でどのように受容され、その結果が各地域間でどのように越境・変容していくかを探る多面的、多層的な研究である。この視点に基づいて、五四時期新文学から文革後の新时期文学、更には台湾文学・香港文学・南アジアの文学までを見渡して受容や交流の過程を探るため、2010年度に各地域の中文文学研究者を招聘して「第八回東アジア現代中文文学国際シンポジウム」（於：慶應義塾大学）を開催、更に2011年度にはその研究と議論をまとめた学術論文集『跨海的東亞現代文学：漂泊・流亡・留学』を刊行した。この一連の研究活動を通して、中国語が越境することで生成する「中文文学」という新たな枠組みについて研究展望を切り開くことができたことも成果のひとつに上げられる。

研究成果の概要（英文）：

This is a multisided and multilayered project which explores how Chinese modern literature in the 20th century has been accepted in each region of Asia, and how the result has crossed the border between each region and eventually transformed itself in the local region. In order to research the acceptance and exchange history using this viewpoint to survey modern literature from the May-Fourth Movement to the new era after the Cultural Revolution as well as modern literature in Taiwan, Hong Kong, South Asia and so forth, "The 8th international conference on modern Chinese literature in East Asia" to which scholars on Chinese literature from different regions were invited, took place in 2010 at Keio University. The papers were published in 2011 as "Crossing borders in modern literature in East Asia: wandering, exile, and study abroad" which reflects each study and discussion. Another result of this project is to clarify the prospects of generating the new framework as "literature in Chinese" after the Chinese language itself has crossed the border between each region.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合計 |
|--------|-----------|-----------|-----------|
| 2009年度 | 700,000 | 210,000 | 910,000 |
| 2010年度 | 2,200,000 | 660,000 | 2,860,000 |
| 2011年度 | 500,000 | 150,000 | 650,000 |
| 総計 | 3,400,000 | 1,020,000 | 4,420,000 |

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学，各国文学・文学論

キーワード：中国現代文学、中文文学、台湾文学、アジア、横浜、越境

1. 研究開始当初の背景

日本国内において中国現代文学を研究する場合、従来は双方の固有性に着目して日本と中国という二つの国家の歴史や政治の座標軸上で接点を探るものが多かった。だがアジアの近代史を見れば、単に日中二国間の相互関係を論じるだけでは両国の近代史の全体像を立体的に解明することができないことは明らかであり、文学も近代化体験の実質として捉えるならば、アジア各国・地域が帝国主義、資本主義、社会主義、植民地、占領地など国家形成や支配形態を異にしながら、相互に影響し合って近代化体験を行い、またその中で自立した近代文化圏を形成してきたという文脈において論じる必要がある。すなわち日本において中国現代文学がどのように受容されたかを一面的な歴史として考えるのではなく、二国間であっても受容は多面的、多層的であり、時として相互通行的な交流場面があったことに着目する必要がある。また一方アジア各地域で近代化体験として立ち上がってくる近代文学と中国現代文学との関連を歴史的、社会的視点で参照しながら、日本や中国を含めたアジア全体の近代文学の問題として考えることが重要である。

2. 研究の目的

まず魯迅を含めて 20 世紀の中国現代文学の各作家が、アジア諸地域でどのような社会的、歴史的状況の中で、どのように受容されたかを具体的事例に基づいて調べることが必要である。ここでは対象となる中国現代文学の時間幅を 20 世紀全体と設定して、五四時期新文学から文革後の新時期文学までを見渡して受容や交流の過程を探ることが大きな目的となる。そのために基礎作業としてアジア諸地域で中国現代文学がどのように翻訳されたか、或いは華人社会の中でどのように出版されたかを整理する。これには各国の研究者の研究協力が必要になろう。こうした基礎研究の上にアジア諸地域の受容のあり方、また、各地域によるその受容の特徴・偏差について具体的事例をもとに明らかにする。例えば魯迅の受容にしても、日本とその植民地朝鮮・台湾では当然ながら同質な部分と異質な部分があるはずであり、シンガポールや南アジアでは華人アイデンティティとの関係が重要となる。つまり通時的研究と共時的研究の接点を探ることを目指すことになる。

3. 研究の方法

初年度の 2009 年度はアジア各地域の中国現代文学受容の実態解明という基礎的研究とそのための資料蓄積を目標とする。研究対象地域は日本、韓国、台湾、香港、シンガポール、マレーシア、極東ロシア、オーストラリア、及び中国国内とし、また対象作家や文学

潮流については各研究者の従来の研究蓄積を踏まえて、それを発展させる形で行う。二年目の 2010 年度は各国の研究者を招いて国際シンポジウムを開催して、アジア各地域の受容研究を並列して検討した上で、相互の伝播・越境・関与について討論を行う。これは同時にアジア各地域の研究者に日本の中国現代文学研究を認識してもらう機会にもなる。三年目の 2011 年度は、基礎研究とシンポジウムの討論の成果をまとめて論文集として刊行する。

4. 研究成果

2009 年度は各人が個別研究を進める一方、東京中国現代文学研究会、東京台湾文学研究会、日吉中国現代文学研究会等の研究会活動を通じて、研究発表や研究蓄積を行い、次年度の準備を行った。2010 年度は五四時期新文学から文革後の新時期文学、更には台湾文学・香港文学・南アジアの文学までを見渡して受容や交流の過程を探るため、各地域の中文文学研究者を招聘して「第八回東アジア現代中文文学国際シンポジウム」（於：慶應義塾大学）を開催、更に 2011 年度にはその研究と議論をまとめた学術論文集『跨海的東亜現代文学：漂泊・流亡・留学』を刊行した。この一連の研究活動を通して、中国語が越境することで生成する「中文文学」という新たな枠組みについて研究展望を切り開くことができたことも成果のひとつに上げられる。研究参加者の個別研究論文は以下 5 に具体的に記載する。なお、この研究を通じて得られた成果は、歴史問題が常に外交問題化するアジアとの今後の文化交流、ひいては世界との文化交流にも資するものとなるはずである。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 19 件）

- ① 長堀祐造、魯迅と胡愈之、慶應義塾大学日吉紀要・中国研究、査読有、Vol. 5、2012、pp. 141-173
- ② 山口守、記憶への旅・（七）中国、リベラシオン、査読有、No. 143、2011、pp. 66-81
- ③ 山口守、巴金とエマ・ゴールドマン（7）、トスキナア、査読無、14 号、2011、pp. 8-15
- ④ 山口守、記憶への旅・（六）中国、リベラシオン、査読有、No. 141、2011、pp. 138-147
- ⑤ 長堀祐造、魯迅革命文学論中的托洛茨基文芸理論、現代中文学刊、査読有、2011、pp. 82-91
- ⑥ 長堀祐造、竹内良雄さんの定年退職を送る、日吉紀要・中国研究、査読有、Vol. 4、

- 2011, pp. 1-8
- ⑦ 飯塚容、關於文学作品翻譯的諸問題、作家、査読無、No. 510、2011、pp. 16-19
 - ⑧ 飯塚容、日本における高行健作品の翻訳と研究、中央大学文学部紀要、査読無、No. 239、2011、pp. 171-190
 - ⑨ 山口守、巴金とエマ・ゴールドマン(6)、トスキナア、査読無、12号、2010、pp. 19-25
 - ⑩ 山口守、巴金とエマ・ゴールドマン(5)、トスキナア、査読無、11号、2010、pp. 58-65
 - ⑪ 山口守、巴金《家》和香港電影、五四新文學精神的薪傳(巴金研究集刊)、査読有、卷6、2010、pp. 388-405
 - ⑫ 長堀祐造、王実味その人、その事、王凡西著《王実味と王実味問題を語る》翻訳解説論文、日吉紀要・中国研究、査読有、Vol. 3、2010、pp. 65-76
 - ⑬ 飯塚容、日本学者眼中的「早期話劇」「文明戲」以及「新潮演劇」、戲劇芸術、査読有、155期、2010、pp. 6-8
 - ⑭ 山口守、台湾文學研究の現在——歴史・言語・共同性をめぐって、中国——社会と文化、査読有、第24号、2009、pp. 349-367
 - ⑮ 山口守、巴金作品《家》文本的變容——關於小説・戯曲・電影、一股奔騰的激流(巴金研究集刊)、査読有、卷4、2009、pp. 216-253
 - ⑯ 山口守、白先勇小説中的現代主義——《台北人》的記憶與鄉愁、台湾文學學報、査読有、14期、2009、pp. 1-17
 - ⑰ 山口守、記憶への旅・(五)中国、リベラシオン、査読有、No. 136、2009、pp. 52-62
 - ⑱ 長堀祐造、魯迅對富田事變與肅A B團的反應、“五四”與中國現當代文學國際學術研討會論文集、査読有、2009、pp. 288-302
 - ⑲ 飯塚容、多人稱的實驗與多聲部構成的嘗試——論高行健的創作特點、香港戲劇學刊、査読有、8期、2009、pp. 185-195

[学会発表] (計14件)

- ① 山口守、台湾文學研究の多様性——日本人性 Japaneseness の桎梏を超えて、シンポジウム「外地」文學の言説的ネットワーク——台湾と「滿洲」の対話、2012年1月21日、國際日本文化研究センター
- ② 長堀祐造、自著を語る『魯迅とトロツキー』、2011年12月19日、日吉中國現代文學研究会、慶應義塾大學・日吉
- ③ 山口守、巴金與愛瑪・高德曼、第十屆巴金國際學術研討會、2011年12月2日、中國：上海市普陀區圖書館
- ④ 長堀祐造、魯迅為何拒絕赴蘇聯療養、東大中文系・南京大學中國現代文學研究中

- 心共催 Workshop 現代中國文學與東亞、2011年11月4日、東京大學文學部
- ⑤ 山口守、巴金與愛瑪・高德曼、第九屆東亞現代中文文學國際學術研討會、2011年10月28日、韓國：ソウル大學
 - ⑥ 長堀祐造、魯迅與胡愈之、紀念魯迅誕辰130周年國際學術研討會、2011年9月25日、中國：紹興咸亨酒店
 - ⑦ 飯塚容、高行健作品在日本的翻譯與研究、「高行健：韓國與海外視角的交差又與溝通」國際研討會、2011年5月28日、韓國：高麗大學校
 - ⑧ 山口守、浦愛德的中國理解——兩個國家、兩個文化、“中國文學海外傳播”國際學術研討會、2011年4月29日、中國：北京師範大學
 - ⑨ 長堀祐造、尾崎文昭著「竹内好の『魯迅』と『魯迅入門』」(『未名』28号、2010・3<中國學・わたしの1冊>)を読む、2011年1月29日、東京現代中國文學研究會、東大本郷
 - ⑩ 山口守、1950-60年代香港映畫的現代性創造——以巴金『家』為主、香港：都市想像與文化記憶國際研討會、2010年12月17日、香港中文大學
 - ⑪ 飯塚容、關於文学作品翻譯的諸問題、2010年9月4日、中國社會科學院
 - ⑫ 山口守、白先勇與1960年代現代主義——從紐約客到台北人、「跨國研究脈絡下的台灣文學：性別、國族與跨文化流動」國際學術研討會、2010年8月25日、台灣：中興大學台灣文學研究所
 - ⑬ 飯塚容、日本中國當代文學出版的現況、漢學家文學翻譯國際研討會、2010年8月10日、中國：作家協會
 - ⑭ 山口守、浦愛德與義和團事件——兩個國家、兩個文化、北京論壇 Beijing Forum 2009、2009年11月7日、中國：北京大學

[圖書] (計3件)

- ① 山口守、他、第八屆東亞現代中文文學國際學會、『第八屆東亞現代中文文學國際學術研討會論文集——跨海的東亞現代文學：漂泊・流亡・留學』、2011、pp. 1-2
- ② 長堀祐造、平凡社、魯迅とトロツキー、2011、470
- ③ 飯塚容、他、現代中國文化的的光芒、中央大學出版部、2009、pp. 277-311

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山口守 (YAMAGUCHI MAMORU)
日本大學・文理学部・教授

研究者番号：70210375

(2)研究分担者

長堀 祐造 (NAGAHORI YUZU)

慶應義塾大学・経済学部・教授

研究者番号：40208046

飯塚 容 (IIZUKA YUTORI)

中央大学・文学部・教授

研究者番号：60151239

(3)連携研究者

無